

## ～男性保育士の草分け～

### 「男性の視点で保育の現場で頑張っています!」



区内の保育施設で働く保育士は、女性が多いですが、現在、目黒区の区立保育園には、13名の男性保育士が勤務しています(区立保育園全保育士の3.3%)。今回は、数少ない男性保育士が所属している目黒区立菅刈保育園を訪ね、目黒区の男性保育士の草分けである副園長の藤木章王さんに保育士としての思いを伺いました。

#### ■保育士を目指したのはいつですか?きっかけは?

目黒区で生まれ育ち、ボーイスカウトの活動で小さい子どもと一緒に過ごした経験から、人と関わる仕事がしたいと選びました。しかし、当時は学校でも現場でも男性保育士は少なく、更衣室や休憩室等、現場実習でも大変苦労しました。男性保育士の募集も少なかったため、卒業後は養護施設や介護施設に勤務していました。その後、2003年に目黒区立保育園の男性保育士第1号として採用され、現在に至っています。

#### ■保育の上で、男性ならではの良さ、男性であるがゆえに経験した困難はありましたか?また保育の現場に女性と男性が両方いる利点は何でしょうか?

保育園は、長い間女性が作ってきた職場なので、その中に男性が入っていくことは、自分にとっても、また受け入れる周りにとっても戸惑いの連続で、男性と女性の保育感の違いなど最初は大変でした。辞めようと思ったこともありましたが、ある園長の「自分の思ったようにやっていいのよ」の言葉に励まされ、今日まで続けています。

保育園での「食事、遊び、お昼寝」などは、家庭の延長のようなものだと思います。男性ならではの『父性』を発揮したり、一緒にダイナミックな遊びをしたりと、子どもに喜んでもらうとやりがいを感じます。

また、職員間や、例えば女性保育士と母親、母親同士で子育てに関して意見交換をしている時などに、男性保育士としての視点で意見を述べることでお互いに気付くことが多くあるので、両方の保育士がいることはよいことだと思っています。

#### ■男性保育士のいる職場として、職員や保護者の意識、保育現場のハード面のことなどお聞かせ下さい。

以前は、男性保育士がおむつ替えをすることに違和感を持つ保護者もいましたが、近年、保護者の意識も大分変わってきて、そういう話は聞かなくなりました。

ハード面に関しては、新設の施設では改善されていますが、古い園舎は男性更衣室や男性休憩室等、環境整備が整っておらず、不便を感じます。

#### ■朝夕の送り迎えは、以前は父親が少なかったと思いますが、最近はどうですか?父親のお子さんへの関わり方の変化について感じていることはありますか?

こちらの保育園では朝夕とも、父親、母親半々くらいです。保護者懇談会なども両親で参加する方も多く、育児への父親の参加は社会の変化とともに、年々変わってきていると実感しています。

#### ■今後、保育の現場で男女平等・共同参画を進めていくための課題は何ですか?

保育園は勤務時間も長く、行事も多いので休みが取りにくい現状があり、保育士の希望者が少ない要因の一つだと思います。また、民間の保育園の場合、介護の現場同様に、企業等の待遇と比較すると給与が低く、特に男性が長く仕事を続けることが非常に難しいと言われていて、保育現場での男女共同参画はまず、男性保育士の数が増えることから始まると思いますので、例えば働きやすい職場に向けての環境整備や、待遇面が改善されていくと、男性保育士の数も増えていくのではないかと思いますし、女性にとっても働きやすい職場につながると思います。

#### ■これから保育士を目指す男性に向けて、メッセージをお願いします。

自分の子どもの成長をみるのも楽しいですが、たくさんの子どもの成長をみるのができ、達成感を感じられます。「こういう子どもに育ててほしい」と、わくわくします。男性ならではの視点や発想力の違いを生かし、子どもの経験に関わることに手ごたえを感じられ、保護者と一緒に喜びを得られる楽しさがあります。

#### ■最後に、今まででうれしかったことをお聞きしました。

「最初に勤務した保育園から異動するとき、年長組で担当した時の男の子3人が高校生になっていて「お疲れさん」と花束を持って逢いに来てくれた時はすごくうれしかったです。」と言って、笑顔を見せてくれました。

#### ■取材を終えて

「保育園は女性が作ってきた職場」という、藤木さんの言葉に、自分の認識のなさに愕然としました。40年前に子どもを預けたときも、保育園に男性がいなかったことに疑問を持たなかったのです。男性保育士さんがいたほうが、絶対、子どもたちも楽しいですよ!もっともっと、男女共同参画が進んだ社会にしていかなければという思いを強くしました。(柏木記)

★「きらり!情報局」は、目黒区男女平等・共同参画センター運営委員会のメンバーが取材・執筆しています。

## 登録団体の紹介

# にほんごの会 くれよん

今回の登録団体紹介は、「にほんごの会 くれよん」です。会員の皆さんに紹介していただきました。



地域の外国人に日本語学習支援する目黒区のボランティア団体です。生活情報提供、子育て支援、日本文化紹介などを通して異文化交流を深めています。教える側、教えられる側という一方通行の関係を越えた対等の立場でともに学び合い、尊重し合う多文化共生を目指しています。

#### 設立

2000年4月目黒区国際交流協会や目黒区女性情報センター(現在:男女平等・共同参画センター)の協力のもと活動を開始しました。日本語習得支援活動に携っていた者が、小さい子どもを連れた人が日本語を勉強する場所が非常に少ないと気づき、賛同者と共に1999年12月に準備が始まり、今年で20年目を迎えます。

#### 運営

費用1回参加ごと全参加者(外国人会員、日本人会員)100円で賄われています。会員の積極的参加に支えられています。

#### 在籍会員数

外国人およそ80名、ボランティアおよそ40名

#### 場所

中目黒スクエア9階の会議室、研修室、保育室

#### 日時

木曜日 10:00~11:30、13:30~15:00

#### 学習支援

1対1または小グループ、教材や内容などは学習者の希望を聞き、きめ細やかに対応。パートナーと課外学習(スーパー、工場、美術館、庭園見学など)も行っています。学習の中でも日本での生活に必要な情報提供、子育て支援、日本文化の紹介なども行います。

#### 研修講座

ボランティアのスキル向上のため講師を招き年に2、3回開講、めぐろ区報で周知し、くれよん会員以外も参加可能です。

#### 行事

七夕、お料理、お楽しみ会、お餅パーティー、雛祭り、着物体験、お花見(中目黒公園)、などお料理では主に日本の家庭料理ですが、外国人の方が自国の料理を指導することもあります。お楽しみ会やお花見では外国人の方々も一緒になって、歌、楽器、ダンスなど自国の文化も紹介してくれます。

「にほんごの会 くれよん」では国籍や言葉のちがいを越えて、楽しくともに学び、高め合っております。興味のおありの方は是非一度見学にいらしてください。

## <にほんごの会 くれよん>

- 代表/石原弘子
- HP/<http://www.006.upp.so-net.jp/crayons/>
- 連絡先/090-9973-8260